



会長(代表理事)  
森本 孝



理事長(代表理事)  
豊住 賢一

## ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。私ども熊本第一信用金庫をより深くご理解いただくために、業務内容、業績等を取りまとめたディスクロージャー誌を作成いたしました。ご高覧いただきますと共にこれからも当金庫をより一層ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

さて、わが国経済は、政府が推進する経済政策の効果に加え、好調な米国経済などに支えられ、マクロでは緩やかな回復基調が続き、景気拡大の期間の長さはすでに高度成長期の「いざなぎ景気」を超えております。その一方で、景気回復の恩恵はもっぱら大企業や都市部に偏っており、足元の経済は、少子・高齢化や人口減少により潜在成長力が一段と弱まり、設備投資は依然として力強さを欠いているほか、個人消費も賃金の伸び悩みにより停滞するなど、好景気といわれる割には、豊かさを実感できないのが実情であります。

一方、地域経済は、地域や業種により差はありますが、少子・高齢化や人口減少といった構造的な問題に加え、経営者の高齢化や慢性的な人手不足といった問題が深刻化しており、多くの経営課題に直面しております。

そのような中、熊本においては熊本地震からの復旧・復興に向け、阿蘇の長陽大橋が開通するなど官民挙げての努力により一歩一歩着実に進んでいます。また、来年にはラグビーワールドカップ、女子ハンドボール世界選手権大会という2つの大きな国際大会が熊本県で開催されます。加えて桜町地区に熊本城ホールやホテル・商業施設からなる複合施設の完成や熊本駅ビル建設に伴う周辺地域の開発、熊本城大天守閣の外観復旧も予定されているなど、他地域と比較して活気ある状況となっています。

業績について概略を申し上げますと、会員数は期末において23,112名(前期比90名、0.39%増)、出資金は3,643百万円(前期比4,247千円、0.11%増)となりました。

預金積金は、「第13弾・ロアツソ熊本応援定期」「定期積金」「年金・給与振込」「阿蘇草原再生定期預金」を推進した結果、期末残高は276,015百万円(前期比6,510百万円、2.41%増)、期中平残は276,384百万円(前期比940百万円、0.34%増)となりました。貸出金は、災害復興等向けの融資、「教育ローン」「フリーローン」等個人向け融資を積極的に推進し、期末残高は154,523百万円(前期比1,902百万円、1.24%増)、期中平残は153,750百万円(前期比3,477百万円、2.31%増)となりました。

期中の損益は、お取引先のご支援と役職員の努力により、貸出金利息は増加したものの、長引く低金利等の影響などから、預け金利息、有価証券利息配当金が減少したため業務収益は減少しました。一方、費用面は経費や支払利息が減少しました。結果、コア業務純益は1,128百万円(前期比19百万円減)、当期純利益627百万円(前期比125百万円増)となりました。

信用金庫業界としては、新長期経営計画「しんきん共創力発揮3か年計画(平成30年4月～平成33年3月)～地域と共に未来へ歩み続ける協同組織金融機関を目指して～」を策定いたしました。

当金庫は熊本地震により被害を受けられた中小企業の経営支援や金融の円滑な対応等のため、引き続きお客様に寄り添い、きめ細かな対応に努めております。また、これからの熊本を担うお取引先等の独身の方々に出会いの場を提供するための「めぐり逢いパーティー」の開催も続けている他、「キッズしんきん教室」の開催や阿蘇の草原を守る支援、ロアツソ熊本への支援等を通じて、地域の発展や活性化のための取組も行っております。

今年度も引き続き、中小企業の経営支援等に務め、地域貢献に全力を傾注するなど、金融仲介機能を発揮して地域経済を支える為、役職員一同業績の向上に邁進する所存でございますので、本年もなお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月